



西消防団だより

平成30年度号(通算第10号)

発行／編集：横浜市西消防団広報委員会 〒220-0041 横浜市西区戸部本町50-11 西消防署庶務課内 (TEL 045-313-0119)



新型防火衣採用



新型防火衣
さらにパワーアップした西消防団

消防団に新型の防火衣が配備されました。防火衣は火災が発生した時に着用する衣服で炎や熱から消防団員を守る大切な装備です。旧型の防火衣は使用開始から20年余りが経過し老朽化が進んでいたほか、重く動きにくいものでした。新型の防火衣は従来のアルミ製防火衣と比べ耐熱性、透湿性、防水性がそれぞれ格段にアップしました。軽く動きやすいうことから災害活動時の熱中症防止や団員の負担軽減も期待されます。また、防火衣と合わせて女性用の冬制服も全面的にリニューアルされ、これまでのセーラー型からブレザーティプに変更されました。オレンジとブルーのネクタイは男性と共通で、港横浜にふさわしいさわやかな印象となりました。

平成30年12月、横浜市消防団に新型の防火衣が配備されました。防火衣は火災が発生した時に着用する衣服で炎や熱から消防団員を守る大切な装備です。旧型の防火衣は使用開始から20年余りが経過し老朽化が進んでいたほか、重く動きにくいものでした。新型の防火衣は従来のアルミ製防火衣と比べ耐熱性、透湿性、防水性がそれぞれ格段にアップしました。軽く動きやすいうことから災害活動時の熱中症防止や団員の負担軽減も期待されます。また、防火衣と合わせて女性用の冬制服も全面的にリニューアルされ、これまでのセーラー型からブレザーティプに変更されました。オレンジとブルーのネクタイは男性と共通で、港横浜にふさわしいさわやかな印象となりました。

防火衣と制服のリニューアルにより、パワーアップした西消防団。これからも西区安全安心を守るために、気持ちを新たに頑張っていきま

西消防団

団員インタビュー

あなたはどうして消防団に入つたの？



西消防団第一分団所属
高岡 弘武さん

— 入団のきっかけを教えてください。

実は、私の父と姉が西消防団員で、家族からの勧めがあり入団しました。家族が消防団員なので消防団がどのような活動をしているかは何となく知っていましたね。父親が家でずっと操法訓練（編集部注：消火技術の正確性とタイムを競う訓練）のビデオを見ていましたし。

— 普段のお仕事は何をしていますか。

接客業の仕事をしています。西消防団には老若男女様々な方が在籍していて、今まで知り合つてきた人々と違う世代、価値観の人々と一緒に活動しています。消防団での活動が仕事にもプラスになつていると感じています。

昼夜、西区の安全・安心を守るために活動している西消防団。しかし、私たち消防団員も普段は一般市民として生活しています。今回はそんな消防団員のことをもっと皆様に知つてもらいたいと思い、2名の団員に消防団に入団したきっかけや、消防団での活動について語つていただきました。

— 消防団に入団して変わったことはありますか。

今まででは街中で倒れている人を見ても「自分は関係ない」と思っていました。でも今ならば多くその人を手助けすることができます。夏に道端で倒れている人がいたら「熱中症だとまずいな」とか。自分で119番しながら応急手当で生きるなと思うし、「まず何をすればよいか」という知識を得られたのは大きいと思います。

— 反対に、消防団で大変なことはありますか。

消防団活動で現場に出場すると「地域に貢献している」という実感を抱くことができます。また日常生活、普通の生活では体感できないことが体感できるのも魅力の一つだと思います。



西消防団第二分団所属
兒玉 千恵さん

私は2年前の11月に入団しました。元々九州出身で横浜に住んでいたのですが、消防団に興味を持ったのは、知人（呑み友達）が西消防団員で、「楽しいからおいでよ」と誘われたのがきっかけです。飲んだ席で操法訓練の話を聞いたのですが、あまりにも想像できない内容で逆に興味を持ち「私もやってみたい！」と思い入団しました。（笑）

— 入団したきっかけを教えてください。



— 最後に消防団について一言お願いいたします。

18歳から入団できるはといえ、今の若い人は消防団が何かそもそも知らないし、消防団は消防署との違いも判らないと思います。東日本大震災で消防団が活躍したといわれていても世間大と認知度はまだまだ低いと思うので、もっと消防団のことを知つてもらえると嬉しいですね。そのためには、防災指導で地域にお邪魔したときもっとPRしていくかないといけないと思います。



普段のお仕事は何をしていますか。

広告サイトの編集をしています。職場が西区なので、西消防団に入団できました。先程の呑み友達と一緒に消防団活動をしていました。(笑)

「西消防団に入団した時の感想はどうでしたか。

「思ったよりも若い人が多いなあ。」と思いまして。元々住んでいる地域ではなかつたので受け入れてもらえるかは少し心配でしたが、地域で加入した方も職場で加入した方も一緒に活動していくと安心しました。

「入団して良かったことはありますか。

かかわろうとしなかつたので、消防団活動の中で地域の人との交流が大事だとと思うようになりました。消防団に入団したことでの考え方には、一人暮らしや長かったのであまり周囲の人と

消防団で大変なことはありますか?

今、消防団の活動に頻繁に出ることができな
いので、ちょっとと覚えたことをすぐ忘れてしま
うのが大変ですね。操法訓練も覚えたことを忘
れなく必ずします。

「最後に消防団について一言お願ひします!

消防団は、みんなで同じことに向かって頑張る
ことができる場です。私は学生時代以来、そうい
うことがなかつたので、とてもやりがいを感じて
います。今は操法訓練が中心ですが、今後は様々
な活動をしてみたいです。

インタビューを終えて



高岡さん、児玉さんのインタビューを終えて、
久々に自分が消防団に入団した頃を思い返して
みました。「地域に貢献したい、地域との繋がり」
を持ちたいと思って入団し早5年、今では消防団
活動が自分のライフワークになっていることに
改めて気が付きました。

西消防団は満18歳以上で横浜市西区に在住
しているか、西区の事業所・学校に勤務・通学し
ている方が入団できます。

今後も西区民の安全と安心を守るために、消防
隊との連携を強化し、災害に備え訓練に励んで
ります。

この記事を読んで、少しでも消防団活動に興
味を持たれた方、消防団活動について知りたい方
は、入団促進アドバイザー（西消防署庶務課 0
45-313-0119）へお気軽にお問合せ下
さい。

教
え
ま
す
西
消
防
団

このコーナーでは、入団を検討されている方か
らよく頂く質問をご紹介いたします。

「会社員でも、入団できますか?」

↓サラリーマンの方でも入団OKです。実際に、
西消防団では多くのサラリーマン団員がいます。

「主婦ですが、入団できますか?」

↓西消防団は、横浜市内にある20消防団の中
でも女性団員の割合が約39%と高く、多くの
女性が在籍しています。

「横浜市西区の出身ではないのですが、入団でき ますか?」

↓区外から転入された方も多数在籍していま
す。入団後、火災予防週間などで管轄区域を巡回
警備しますので、地理に明るくなくても安心し
てください。

「仕事や子育てなどで活動できる時間に制約があ ります。それでも入団できますか?」

↓活動可能な時間に制約がある方も入団できま
す。詳しくは上記「入団促進アドバイザーへお問い合わせください」

「訓練や会議など、毎月何回くらいありますか?」

↓毎月、何かしらの会議・訓練などがあります。
ただし、お仕事などで都合が付かない場合は、欠
席されてもかまいません。

「消防団の活動は無報酬ですか?」

↓消防団員として活動を行った際には「横浜市消
防団員の定員、任免、給与、服務等に関する条例」
に基づき、一定の報酬の支払いがあります。

「災害に出場したときにケガをしたら、補償はあ りますか?」

↓災害や訓練で万一本がをした場合は、しっかりと
補償する制度がありますので心配はいりません。

大震災に備える!

消防団・消防署・警察署の総力を結集
三機関合同震災対策訓練を実施



平成30年1月、西消防署にて西消防団、西消防署、戸部警察署の三機関合同で大規模震災時の救助救出訓練を行いました。これは横浜市内で震度7を観測する大地震が発生した際に消防団、消防署、警察の三機関が協力し消火・救出活動を行うことを想定した訓練で、西消防団では初の開催となります。

訓練は、①倒壊建物からの人命救助、②追突車両からの人命救助、③狭隘地域でのホース延長の3つのシーンを想定し各団員が活動しました。西消防団はエンジンカッター・油圧ジャッキ・可搬式油圧カッターなどの貸与資機材を有効活用し人命救助を行つたほか、西消防署員よりがれきが散乱した狭隘道路上でホースを延長する際の保護方法を、戸部警察署の署員からバールを用いた救助方法のレクチャーを受けるなど、消防団・消防署・警察が連携協力しありの救助救命技術を向上することができました。

回長挨拶



西消防団長
矢部 孝二

地域の皆様には日頃から消防団活動にご理解とご協力をいただき感謝申し上げます。また、団員の皆さんには、訓練、研修、町内会への防災指導と様々な活動、ご苦労様です。

九

これらの恐怖は薄れる事はあつても悲惨な災害を忘れてはならないと思います。

天災は防げなくとも減災はできます。

我々西消防団員は、今までの訓練を活かし、消防隊との連携を更に強化して、西区民の安全と安心な暮らしを守つていきましょう。

分団長挨拶



**第一分団 分団長
菊地 克明**

平成30年4月より西消防団第一分団の分団長に就任いたしました菊地です。日頃より地域の皆様には地域防災力の強化に向け熱心に取り組みいただき感謝申し上げます。

第一分団では、大規模災害や救急救命を想定し、それらに対応すべく日頃の訓練に取り入れています。

分団管轄地域内には、木造密集地域、狭隘道路や急傾斜地が多く、小回りの利く車両と可搬ポン

毎月の訓練では、資機材の取り扱いなど基礎的諸能力の向上、消防隊との連携に重点を置き、救助訓練や現場指揮要員としての情報収集体制確立の訓練を実施することで、様々な事態が想定される災害現場での団員一人ひとりの活動能力向上を目指しております。今後とも、地域住民の皆様に安心と安全が届けられる防災リーダーとして、頼られる消防団を目指し全力で取り組んでまいります。

A portrait of a Chinese naval officer wearing a blue camouflage baseball cap and glasses, standing outdoors near a ship.



**第二分団 分団長
和田 康雄**

第二分団分団長に任命されて、今年の4月で早くも3年になります。平成30年は大阪や北海道などで大きな地震が発生してしました。正直、自分が今まで経験したことが無いほど大規模な地震が来るなんて想像できませんが、突然発生する災害や火災にも、西消防団として第二分団としてしつかり活動できるよう多くの訓練を重ねております。

平成30年9月の震災対策訓練は台風24号の影響により中止となつてしましましたが、団員が一丸となつて協力し合い、消防活動と救助活動を行う重要な総合訓練ですので特に力を入れていきたいです。

火災を防ぐのは住民それぞれの役目ですが、その火災を延焼させない為に、消防隊と共に消防団も動きます。

今後さらに西消防署との連携を強化させ、地元西区を守り続けていきたいと思います。

A portrait of Captain Toshiro Ueda, wearing a black helmet with a white visor and a blue flight suit. He is smiling at the camera.



**第三分団 分団長
白駒 利和**

昨年も北海道での地震や台風による風水被害など、日本各地多くの災害に見舞われました。多くの方が被害に遭われ、今なお復興に向けて奮闘しております。

第三分団の受け持ち地域はみなとみらい地区や横浜駅周辺などの繁華街、また昔ながらの住宅密集地やマンションなど、いざ大規模災害が起きた時などは住民や労働者などで大変な混乱が起きる事は必然です。

この様な事態に備え、常日頃より週1回の資機材取扱いなどの基

本訓練や、海が近い地域性に対応した風水害対策訓練などの活動を通して、団員の意識・能力の向上に努めています。また昨今の異常気象や多くの災害発生により、住民の「自助・共助・公助」への意識も高まっております。消防団員もその先頭に立つべく、町内会やマンション、企業などの防災訓練等の啓発活動も積極的に行っております。今後もこのような意識はさらに高まっていくものと思いますので、地域の方々も遠慮せずに消防団にお声がけください。

「我が町は我が守る」、一緒に消防団で活動していきましょう。

—消防署と消防団の連携について—

平成の次は？

これからも西区の安全安心のために！

西消防署長

宮川 淳



平成30年4月1日に西消防署長として着任しました宮川です。新任署長として西区の消防行政を司る責任感で身が引き締まる思いです。都市型消防団として日々訓練等を重ねている西消防団の皆さん、よろしくお願ひします。

さて、平成30年は日本全国で例年以上に豪雨、大地震などの自然災害が多発した年となり、皆さんも危機意識を募らせているのではないかでしょ？巷では「平成最後の：」という言葉が頻繁に聞こえています。その昔は天皇の即位のほかに災厄を断ち切り、新しい世の中をつくる意味合いで改元を行ってきたのですが、それだけ災害の多い日本の歴史を物語ついています。

平成31年はいよいよ新元号とともに西消防署は創設100周年を迎えます。これからも西消防団の皆さんをはじめ、地域の方々とともに、西区の安心・安心に全力を尽くします！



西消防署副署長の福元でございます。西消防団では、けいゆう病院の湯浅医師監修のもと、JPT-ECCファーストレスポンダーコース研修（日本救急医学会公認の病院前外傷教育プログラム）で、現場から病院内まで一貫した思想のもとに標準的な外傷教育を行い、防ぎ得る外傷死亡の撲滅を目指すもの。外傷傷病者に遭遇する可能性のある非医療従事者を対象として、傷病者発見から救急隊に引き継ぐまでの対応を学ぶコースを実施しました。

主に応急手当指導員を対象に、24名の団員の方々が本コースに挑戦しました。当日は医学用語が飛び交う中、団員の皆様は積極果敢に挑戦され、顔つきは真剣そのものです。『救える命を救いたい』この合言葉が心を動かすのだろ？と思ひます。自費で購入した感染防止衣やバックボーデを活用し、訓練や災害対応は「都市型消防団」のラайдそのもので。全ては西区の安全・安心のため、今後も終わりなき挑戦続けます。



平成30年4月1日付けで西消防署警防第二課長に着任しました岩永でございます。日頃から西消防団の皆様には、災害現場での活動をはじめ、地域での訓練指導やイベントでの警備等にご尽力・ご協力いただきありがとうございます。

いよいよ平成31年は、ラグビーW杯、第7回アフリカ会議、そして、2020年には東京オリンピック・パラリンピックが開催予定です。世界中から多くの方が横浜を訪れ、中でも横浜の中心部である「西区」には国内外から多くの方が集結することが予想されます。併せて多種多様な災害に備え、我々、西消防職員・西消防団員は災害の未然防止、被害の軽減を目指し相互に協力し、災害への事前対策迅速・適切な即応活動を行わなければなりません。

●●●最悪の事態を想定して行動する。●●空振りは許されるが、見逃しは許されないを、合言葉に「住む人、訪れる人が安心・安全を実現できる西区の実現」に向け、今後ともどうぞよろしくお願ひいたします。

終わりなき挑戦

西消防署副署長

福元 五喜

災害に対する心構え

西消防署警防第二課長

岩永 正己

地域の自発的防災力向上の担い手 西消防団

境之谷消防出張所長 小野 敬康



平成30年4月1日付で西消防署境之谷消防出張所長に着任いたしました小野でござります。西消防団の皆様におかれましては、日頃から災害現場活動や地域イベントの参加、さらには防災指導などを通じ地域の方々の安全・安心に尽力いただき誠にありがとうございます。西消防団は、地勢的に住宅密集地域や中高層建物群、また大規模ターミナル駅に河川等様々な災害要素を含んでいる横浜を凝縮したような街であり、その中での活動には日頃からの知識・技術取得が不可欠であります。

赴任から半年余りが過ぎ、様々な場面において皆様方と一緒に仕事をする機会がありまして。特に地域での防災指導の折など、団員の方々一人ひとりの意識の高さ、スキルの高さは、日々一人ひとりの意の見張るものがあり、住民と密着した丁寧な姿勢には感心しております。どうか、これからも引き続き地元愛を發揮され、消防署と消防団が、ともに車両の両輪とし、さらに連携・協力を深めながら地域の防災力の向上に努めてまいりましょう。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

今後も両輪の輪としまして、より一層の連携協力ををお願いいたします。

平成30年4月1日付で西消防署境之谷消防出張所長に着任いたしました陣野でござります。西消防団の皆様におかれましては、日頃から災害現場活動や地域イベントの参加、さらには防災指導などを通じ地域の方々の安全・安心に尽力いただき誠にありがとうございます。

日頃、西消防団の皆様におかれましては、西区の安全・安心のためにご尽力いただき感謝申し上げます。

私は自身といたしましては、防災指導時に数多く消防団の皆様の力をお貸し頂きました。そこで、助けて頂いておりますことに、改めて感謝申し上げます。

防災指導時に強く感じましたのは、消防団の皆様の指導技術の高さはもちろんです。特に地域での防災指導の折など、団員の方々一人ひとりの意識の高さ、スキルの高さは、日々一人ひとりの意の見張るものがあり、住民と密着した丁寧な姿勢には感心しております。どうか、これからも引き続き地元愛を發揮され、消防署と消防団が、ともに車両の両輪とし、さらに連携・協力を深めながら地域の防災力の向上に努めてまいりましょう。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

日頃、西消防団の皆様におかれましては、西区の安全・安心のためにご尽力いただき感謝申し上げます。

浅間町消防出張所長 陣野 洋平



地元を守る熱い思い

消防団と消防署の連携で 地域の安全と安心を守る



消防団は、消防署と同じ消防組織で定められた消防機関です。横浜市の消防団は、非常勤特別職地方公務員で、普段は本来の仕事や学業、家事をしながら、その地域での経験を活かし災害その他必要な時に活動します。

西消防団は、西消防署と日頃の訓練や講習において顔の見える関係を築き、火災発生時における消火活動や、地震や風水害などの大規模災害時の各種活動、また、平常時においても応急手当の普及指導、自治会や企業などへの防災指導、特別警戒、広報活動等を実施し、地域防災力の向上に重要な役割を担っています。

J P T E C ファーストレスポンダー 講習初開催

平成30年12月、西消防団では救命技術のさらなる向上を目指し、傷病者発見から救急隊等に引き継ぐまでの対応を学ぶJ P T E C ファーストレスポンダー講習を初めて開催しました。

J P T E C ファーストレスポンダーとは病院前救護にかかる人々が習得すべき知識と体得すべき技能が盛り込まれた活動指針のことです。

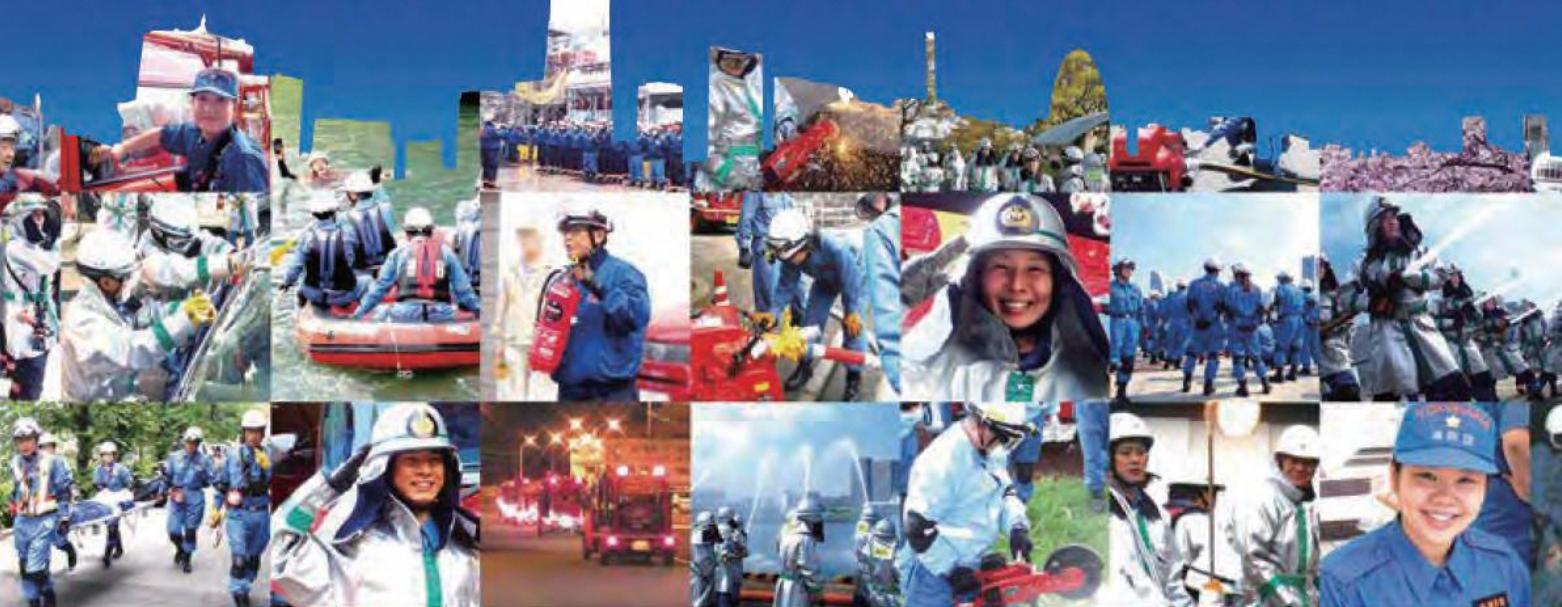


科センター長の湯浅医師をはじめ、西消防署の救急隊員の方々が講師となり、傷病者の容態観察や体位変換、担架（バックボード）への固定方法を丁寧極め細かいレクチャーを受けました。

今後も西消防団では、研修で得た知識と技術を生かし今後も救命率の向上を目指して活動を行います。



ここにあります、あなたの手から始まる地域防災



西消防団★団員募集!

満18歳以上で横浜市西区内に居住、または勤務・在学している方なら男性でも女性でも入団できます。

お問い合わせは 西消防署庶務課 入団促進アドバイザー 電話 045(313)0119

